

柳津小学校だより

鳴神山



2020, 7, 17 No. 17

柳津町立柳津小学校

発行者 校長 星 潔



水泳特別授業（中村真衣さん）

7月14日（火）にBGプールにおいて、中村真衣さんを講師にお迎えし、2，3年生で水泳特別授業を実施しました。中村さんは、シドニーオリンピックの100m背泳ぎで銀メダル、400mメドレーリレーで銅メダルを獲得したオリンピックメダリストです。オリンピックのメダリストの指導を受けられる本当に貴重な機会となりました。2，3年生は、やさしく丁寧な中村さんの指導で技能がどんどん上達していきました。ビート板を使ってではありますが、初めて25mを泳ぎ切った子どももいました。また2，3年生の元気なあいさつも褒めの言葉をいただきました。中村さん、お忙しい中、子どもたちのために本当にありがとうございました。



生き物調査

7月9日（木）、農青連の皆様、JAの皆様を講師にお迎えし、4，5年生で「生き物調査」を学校田で実施しました。今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休業のため、田植えを子どもたちは実施できず、農青連の皆様を中心に実施していただきました。そのため実際の田んぼでの活動はこれが初めてとなりました。子どもたちは講師の皆様の説明を聞きながら、意欲的に観察に取り組みました。また5年生が作成した学校田の看板も設置しました。5年生のアイデアが詰まったとてもよい看板です。お近くをお通りの際はぜひご覧ください。ご指導をいただきました農青連の皆様、JAの皆様、本当にありがとうございました。



プログラミング教育

今年度より開始された新学習指導要領からプログラミング教育が全面実施されました。本校でも「柳津小学校プログラミング教育全体計画」「プログラミング教育年間指導計画」を昨年度のうちに作成して取り組んできたところです。7月13日（月）には、3年生でプログラミング教育の授業研究会を実施し、全職員で協議しました。

プログラミング教育のねらいは以下の3つです。

- ① 「プログラミング的思考」を育成すること。
- ② プログラムや情報技術の社会における役割について気付き、それらを上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度を育むこと。
- ③ 各教科等の中で実施する場合については、「教科等での学びをより確実なものにする」こと。

子供たちは「mBot」という車の教材を使って、友だちと対話しながら、高得点を得られるプログラムを意欲的に考えていました。ねらいの1つである「プログラミング的思考」が育ってきていると感じました。これから全学年で、学年の実態に合わせてプログラミング教育を実践していきます。



校長のひとりごと

我が家の1番下の息子は高校3年生で、陸上部でやり投げをやっています。出場可能な記録には程遠く、出場は夢のまた夢ではありますが、最後の夏「インターハイ」出場を最大の目標にして取り組んでいたようです。しかしご存じのとおり、その最大の目標は中止となってしまいました。本人も中止になるだろうと覚悟はしていたところだったのですが、やはり正式に中止決定になった日には荒れていました。やり投げではなく投げやりでした。そんな日に、親として「仕方ないよ。」とか「お前だけじゃなく、他の子も、他の部活も中止だから。」とか、そんな簡単な言葉ではなく、何かいい言葉をかけられないか考えたのですが、子どもに前を向かせる良い言葉はなかなか見つかりませんでした。親としてできることは何か。結局寄り添い見守ることを選択しました。小学生だったら、何も言わずに抱きしめてあげることがよかったと思いますが、男子高校生には無理でした。親ができることは限られているかもしれませんが、親だからこそできること、親しかできないことがあると思います。忙しい中ですが、我が子のお話を聞く時間を取り、我が子の悩みに気付き寄り添い、少しでも前を向き良い方向に向かっていけるように日々接していかなくてはいけないと改めて反省をしたところです。

明日、高校代替大会会津地区予選会が行われます。これが最後の大会になると思います。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、観覧席からの応援・観覧は禁止となっていますが、陸上競技場に出かけ、遠く離れているフェンスの外からではありますが、息子と同じ空間で、同じ時を刻み、親として遠くから我が子を見守りたいと思います。

※ 柳津教育ねっと（ホームページ）にも本校児童の様子が掲載されております。そちらもご覧いただければ幸いです。

